

# 「地域の人材を授業の中に生かした学習指導について」

## — 3年間を通じた外部指導者の指導力を

## 生かした剣道学習の実践—

高松市立桜町中学校

教諭 大坂 真喜子

### 1 はじめに

私がこの研究のきっかけは、生涯を通じて、健康で有意義な生活を送るために体育的活動とどう関わっていくかということを考えてとき、地域の指導力を生かすことができないかと思ったことである。卓越した技能を持つ地域の外部人材を活用することで、その種目のもつ本当の素晴らしさを体感させることができ、より一層その種目のことを深く理解させ興味関心を高め、色々な角度から体育的活動に取り組む態度が育てられるのではないかと考えた。

高齢化社会になり、教育の現場でも生涯にわたり、健康で有意義な生活を送るために必要な体力や健康の保持増進について習慣化が図られなければいけない時代になってきている。学習指導要領では、その体育的活動の取り扱いが改訂され、男女を問わず武道とダンスの実践が必修となり、女子教員が女子に武道を指導したり、男子教員がダンスの指導をしたりするという場面がでてきている。しかし、種目によっては技術面において専門性の高い指導が困難な場面も生じてきている。

各種目の技術的専門性を補いながら教師の指導力を向上させるためにも、そして、指導経験の少ない若年教員のためにも、地域の卓越した指導力を持つ外部人材の活用の在り方を研究・実践して、教師の指導力の育成につなげ、よりよい授業経営を目指した。

### 2 実践の内容・方法

#### (1) 課題設定の理由

学習指導要領では、男女を問わず中学校3年間を通じてダンス・武道の履修が必修となっているが、特に体育実技の中では、女子の武道と男子のダンスについては、その教員の指導力に課題が残る種目である。小学校時には男女共修で体育を履修するが、中学校に入学してからは成長の過程の中で、男女を分けて履修させている学校がほとんどである。その中で、男性教員が男子にダンスを指導し、女性教員が女子に武道を指導するという状態が必然的に起こってくる。しかし、生徒だけでなく教師側も男子は武道そして女子はダンスという古い観念が存在したり、男性の教員はダンス指導に苦手意識を持っていたりする。女性の教員は大学でも武道を履修することがないため、指導の障害になっている。ダンスや武道の良さを生徒に伝え、生涯を通して運動に親しむ態度を育成することは、多感で精神的にも身体的にも成長期の中学生にとって大切なことであり、健康で豊かな生活を営む基礎となると考える。

教師の指導力を補い、生徒に正しくそれぞれの運動の良さを伝えるために、地域の指導者の力を生かし、3年間を通じて継続した指導をすることにより、その運動の良さや健康に生活するための態度の育成をしようと考えた。

## (2) 実践内容

### ① 外部指導者の選考

まず初めに、指導者の選考には細心の配慮をした。剣道を一度もしたことのない女子生徒であるため、剣道を分かりやすく親しみの持てる種目として取り組むことを考えた。そこで、香川県剣道連盟や高松市剣道連盟の協力で地域のスポーツ少年団等を指導している指導者の中から、定期的に講習会を受講され、小学生から中学生・高校生にも指導経験を持つ方に指導をお願いした。剣道連盟が主催している講習会では、指導の方法や方向性、または指導の重要ポイントの確認をしていることをお聞きし、中学校の授業で指導をお願いしても、その講習の内容が生かせる内容であることを確認した。そして、剣道七段という有段者であるため、技術的な面でも精神的な面でも、生徒にとって学ぶべきことが多大にあると考えた。授業が限られた期間で4週から5週の週1回の指導をお願いしなければいけないため、実施時期やその時間帯には指導者との調整を十分におこなった。

### ② 指導計画

剣道には独特の礼法や動きがあり、日本古来の伝統を深く受け継ぎ、現在もスポーツ的な感覚よりは武道としての色合いが強い種目である。そのため、剣道を経験したことのある者にとってはあたりまえのことでも、未経験者にとっては、難しく感じることが多い。3年間を通じて、剣道に親しむことができるように見通しを持った計画を立案した。

#### 【1年次】

剣道の「くさい」「さむい」「いたい」という、マイナスイメージを持たないように心がけた。たとえば、外部指導者と相談して、1年生に対しては、床の冷たさから解放するために上靴を履いて実践させたり、長袖・長ズボンを着用させたりすることでけがの予防に努めた。授業形態も授業規律は教諭が担当し、準備運動をした後外部指導者が実技指導の場面で見本を見せたり、直接個別指導にあたりたり、外部指導者の技術力を十分に発揮できるようにし、剣道の素晴らしさがより体感できるように工夫した。また、外部指導者の指導を授業実践に十分に生かせるよう学習過程や内容の共通理解も図った。外部指導者は主に実技指導を担当することで、外部指導者に変更が生じても、授業形態が変わることなく生徒が落ち着いて授業に取り組めるよう配慮した。

1年次の指導計画

時間数	予定日時	対象クラス	主な指導内容
1時間目	1月18日	1年1～8組	剣道の礼法・基本動作
2時間目	1月20日	1年1～8組	基本打突の仕方と受け方（面うち）
3時間目	1月25日	1年1～8組	基本打突の仕方と受け方（胴うち）
4時間目	1月27日	1年1～8組	基本打突の仕方と受け方（小手うち）

#### 【2年次】

剣道の着装に重点を置き、着装を整えて剣道の技の多様性を体験できるようにした。剣道具の準備・片付け等も外部指導者の経験から、必要最小限の準備・片付けのこつ

を学び、生徒全員が2分間で着装できるように、お互いの学び合い学習を取り入れた。

#### 2年次の指導計画

時間数	予定日時	対象クラス	主な指導内容
1時間目	1月11日	2年1～7組	基本動作
2時間目	1月17日	2年1～7組	基本となるしかけ技（二段の技 小手面）
3時間目	1月24日	2年1～7組	基本となるしかけ技（二段の技 面胴）
4時間目	1月31日	2年1～7組	基本となるしかけ方（引き技）

#### 【3年次】

生徒主体の活動を大切にするために、試合形式の内容が多く取り入れられるように配慮した。外部指導者による専門的技術指導を生かすために、審判の方法を学ぶとともに、実践的な内容が学習できるように対人技を多く取り入れた。

#### 3年次の指導計画

時間数	予定日時	対象クラス	主な指導内容
1時間目	11月21日	3年1～7組	防具をつける（基本打ち）
2時間目	12月4日	3年1～7組	2人組（基本打ち・二段打ち）
3時間目	12月11日	3年1～7組	2人組（面ぬき胴・約束稽古）
4時間目	12月18日	3年1～7組	4人組（試合稽古）
5時間目	12月20日	3年1～7組	試合稽古（団体戦）



外部指導者による礼法の指導の様子



防具をつけての対人での指導の様子

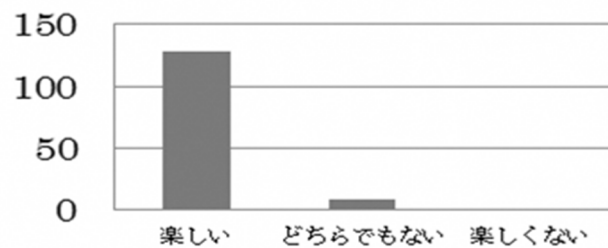
### 3 実践の成果

外部指導者の指導力を授業の中に取り入れることで、剣道を初めて取り組む生徒にとって、マイナスのイメージを払拭して、生涯を通じて機会があれば剣道に親しみ、日本古来の武道の良さを体感できたと考えている。生徒の学習意欲を高めるためには、教師の指導力を向上させることが必要であるとともに、地域の外部指導者の起用は、

より正しい剣道や良さを生徒に体感させるために有効な機会となった。

礼法指導では、あいさつの意味や日本古来の剣道の中には相手を痛めつけたり勝つことが本来の目的ではなく、相手の気持ちを考えたり思いやるという人として大切な心はその動きや礼儀の中に含まれていることを、外部指導者の説明から学ぶことができた。高段者の身のさばきや動かし方、そして独特の発声や声の大きさにいたるまで、実際に生徒の五感を通じて感じとらせることに重点をおいたことで、学習効果を上げることができた。授業後の感想は楽しいと感じた生徒が 134 名、どちらでもない生徒が 2 名で、この 2 名はけがのため剣道の授業を見学した生徒であった。その後の保健学習でスポーツについて調べ学習をしたところ、剣道を調べる生徒が 20%以上おり、初めて経験した剣道に興味・関心が高まったことは確かである。日本古来の武道に触れる経験は、「大きい声を精一杯出して活動することは心地よかった。」という生徒の感想からも分かるように、プラスの感想が多く、生徒にとっては、新しい学習内容に触れる良い機会となった。また、その中で卓越した技術を持つ指導者の指導は、より剣道の良さを感じることができる授業となった。

授業後の感想



#### 4 普及させたい取組と期待される効果

今回の指導では、地域の人材を外部指導者として招くことにより、より一層剣道の授業を充実させることができた。生徒の剣道に対する取組も年々向上し、3年計画で取り組めたからこそ、より効果の上がる指導となった。剣道という日本古来の武道の実践は、多くの約束事に縛られ、自由に教えることができなかつたり、また教えなければいけない約束事を教師側が指導できていないことが予想された。しかし、地域の卓越した技能を持つ外部指導者の授業参加により、技術的な面の指導が補われ、より正しい技術指導と剣道本来の良さを生徒に実感させることができた。地域の外部指導者の指導力を生かしたとしても、年間4回～5回の指導では、技術の定着には難しいがその指導を3年間繰り返すことにより定着させ、生涯を通じて剣道に親しみ健康で豊かな生活を営む態度を育てるよい機会になった。この経験は剣道だけにあらず、男子のダンス指導にも生かせると考えられる。地域の卓越した技能を持つ指導者の発掘と起用により、生徒にとって、さらに若年教員にとって、より充実した授業が期待できる実践となった。

#### 5 課題及び今後の取組の方向

3年間の継続した指導を経験して、課題として残ったのは1年間に4時間という短い期間での剣道の指導で、日本古来の剣道の良さを体感させるには十分であったが技能の修得ということに関しては課題が残った。1年目に取得できていたことでも、1年経過するともう一度一から学習しないと忘れてしまっていることが多かった。今後は剣道だけでなく、ダンス指導や他の競技においても指導者の指導を補えるような外部指導者の指導を授業に生かしていきたいと考えている。